

[20_06]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468162>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 20 (6), 1987-11-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

お 知 ら せ

UTSの運用について

UTS(Universal Timesharing System)は、アムダール社と富士通(株)が開発したUNIXシステムで、AT&TがライセンスしているSystem V Release2.0にカルフォルニア大学バークレー校の4.2BSDの機能を一部付加したものです。このUTSを本センターでは9月1日(火)よりFACOM M-780のもとで利用者サービスを開始します。しかし、9月末までの1ヶ月間は課金情報の表示は行いますが、負担金は取りません。UTSの利用申請、利用法等は以下のとおりです。

なお、これまでサービスしていたオペレーティングシステムOS IV/F4 MSP(以下MSPという)の運用は従来どおりです。

1. 利用申請

UTSを利用しようとする場合は、あらかじめ本センターの利用申請(MSPへの利用申請)を行っておく必要があります。UTSの利用申請は、MSPを用いて行います。MSPにログオンし、申請コマンドSINSEIを用いて、UTSの利用申請を行います(SINSEIコマンドについては九大大型計算機センターニュース No.330参照)。申請後1時間程度でUTSが利用できるようになります。パスワードの初期値は登録番号の第1桁目の英字と、支払責任者番号の数字部の下2桁と経理責任者番号の数字部の下2桁からなっています。

(例) 登録番号	A71234A
支払責任者番号	U75678A
経理責任者番号	V79123A
パスワード	A7823

パスワードはUTSにログイン(MSPのログオンに相当)して、passwd コマンドで変更できます。

2. サービス時間と利用負担金

MSPのサービス時間と同じです。UTSにおける負担金はMSPにおける負担金規定を適用し、プロセス課金(CPU時間)、ファイルアクセス課金(ディスクアクセス回数)、セッション課金(端末接続時間)、ディスク課金(データセット量)を行います。

3. 使用可能な端末と周辺機器

使用可能な端末は、ASCII系端末(パソコン、ADM3A、REGENT等の端末)と富士通製F9526系端末(IBM3270系端末)があります。F9526系端末は当センター2階に数台設置していますが、漢字のサポートはありません。画面エディタとしてはnedを使用してください。研

研究室等にあるASCII系端末は交換回線経由、またはポートセクタ(PACX)経由で利用できます。端末が漢字をサポートしていれば、端末での漢字の入出力が可能です。磁気テープ装置、ラインプリンタは当面直接使用できません。これらの入出力装置を使用するには、UTS-MSP間のファイル転送を行う必要があります。

4. 通信回線の接続

センター外からの接続方法は次の通りです。

回線の種類			電話番号等
電話回線	内線	300bps(V.21) 1200/2400bps(V.22/ V.22bis)	(箱崎地区)88 (箱崎地区)89
	外線	300bps(V.21) 1200/2400bps(V.22/ V.22bis)	(092)631-1908 (092)631-3278
PACX(1200/4800bpsのみ)			class u

注1)V.21, V.22, V.22bisはモデムの規格です。

注2)PACX経由の場合は、最初に“-”(ハイフン)を入力する必要があります。

5. 端末の設定

UTSでは全2重通信をサポートしており、フロー制御、先行入力が可能です。このためパソコン等のTERMコマンドのパラメータあるいはパラメータスイッチは次のように設定してください。

パリティチェック	なし
ビット長	8ビット
ストップビット	1ビット
フロー制御	あり
通信モード	全2重
オートLF	なし

例えば、NEC PC9801の場合は TERM"COM:N81XNBCLP",Fとなります。

6. 端末タイプの指定

UTSの画面エディタ(vi, jvi)を使用可能とするためには端末属性と端末タイプを、あらかじめUTSに登録しておく必要があります。端末属性は端末タイプ名で画面エディタに参照されます。例えば、PC9801のtermモードで接続する場合はpc9801というタイプを指定して

ください。/usr/lib/terminfo にUTSで使用可能な端末タイプが登録してありますが、ここに利用者の使用する端末タイプの登録がなければ、端末の属性を定義してください。連絡していただければ、登録はセンター側で行います。現在登録済みの主な端末タイプには、adm3, adm3a, fm7, fm77, fm8, fm11, fm16, fm16d, f9450, pc9801, tty, decwriter, regent, regent100, tek4012, tek4014, vt52, vt100等があります。ログイン時に端末タイプを入力しなかった場合は、tty(デフォルト値)に設定されます。なお、PC9801でMS-DOSベースの通信ソフト(アスキー社のESterm, Ctermなど)を使用した場合の端末タイプはpc9801-msとしてください。

7. 利用可能な言語プロセッサとエディタ

現在、UTSのもとで使用可能な言語プロセッサとして、UTSアセンブラ、Cコンパイラ、富士通製Cコンパイラ、Fortran77コンパイラ、Pascalコンパイラ、Snobolコンパイラなどがあります。

エディタはラインエディタと画面エディタ(フルスクリーンエディタ)に分けられ、ラインエディタとしてはed, jed, ex, jexなどが、画面エディタとしてはvi, jvi, ned, scopeなどが使用可能です。

8. 簡単な使用例(loginからlogoutまで)

次にUTSの簡単な使用例を示します。MSPのログオン、ログオフをUTSではログイン(login)、ログアウト(logout)と呼びます。接続機器はPC9801で、vt100エミュレータを用いてPACX経由でUTSに接続しています。下線部が端末からの入力です。";"以降は説明です。

```

_                               ; ーを入力(エコーバックなし)
enter class _                   ; uを入力
class u start

kyu-cc

Welcome to FUJITSU UTS

login: a70001a                 ; ログイン名(MSPのユーザーid)入力
password: _____             ; パスワード入力(エコーバックなし)
**** statistics and charges ( a70001a ) ****
**      total size of reserved files      =      101 KB      **
**      total charge                       =      123 yen      **
*****
; 前日までの課金情報と確保しているデータセット量が表示される。
; もし有効期限が切れていたり、予算オーバー(打切り)の場合は、
; そのむねの表示がされて、強制的にログアウトされる。

```

```
welcome UTS world.
Terminal Type: vt100          ; 端末タイプを入力
%                             ; プロンプト(MSPのREADYに対応)
% who                         ; 現在のログインユーザ名の表示
a70001a      tty084          Jul 31 10:28
a70002a      tty08c          Jul 31 10:06
% cal 8 1978                 ; 1987年8月のカレンダー表示
    August 1978
    S M Tu W Th F S
          1  2  3  4  5
    6  7  8  9 10 11 12
   13 14 15 16 17 18 19
   20 21 22 23 24 25 26
   27 28 29 30 31
% passwd                     ; パスワードの変更
Changing password for a70001a
Old password: _____    ; 現在のパスワードを入力
New password: _____    ; 新しいパスワードを入力
Re-enter new password: _____ ; 新しいパスワードをもう1度入力
%                             ; 新しいパスワードに変更された
% logout                     ; セッションの終了(終了メッセージなし)
```

9月発行の広報にUTSに関する解説、使用法を掲載します。その原稿のコピーをプロ相室と2階受付に備えておきます。利用者の方でUTSの詳しい使用法について知りたい方は御利用ください。

参考文献

1. 計算機マニュアル, (英語版): UTS System Description V10L30 (24GR-1001E-1), 富士通(株).
2. 計算機マニュアル, UTS文法書(一般利用者コマンド編) V10L30(24SP-1021-1), 富士通(株).
(英語版): UTS User Reference Manual V10L30(24SP-1021E-1), 富士通(株).
3. 計算機マニュアル, UTS文法書(プログラミング編) V10L30(24SP-1031-1), 富士通(株).
(英語版): UTS Programmer Reference Manual V10L30 (24SP-1031E-1), 富士通(株).
4. 計算機マニュアル, (英語版): UTS Programming Guide V10L30(24SP-1061E-1), 富士通(株).
5. 計算機マニュアル, UTS使用手引書(一般利用者編) V10L30(24SP-1051-1), 富士通(株)(英語版): UTS User Guide V10L30 (24SP-1051E-1), 富士通(株).
6. 計算機マニュアル, (英語版): UTS Shell commands and Programming V10L30 (24GR-1110E-1), 富士通(株).
7. 計算機マニュアル, UTSエディタ使用手引書 V10L30 (24SP-1091-1), 富士通(株).

(英語版): UTS Editing Guide V10L30 (24SP-1091E-1), 富士通(株).

8. 計算機マニュアル, UTS JSP使用手引書(日本語プログラミング環境) V10L30 (24SP-3010-1), 富士通(株).
9. 計算機マニュアル, UTS ネットワーク手引書 V10L30 (24SP-3000-1), 富士通(株).
10. 計算機マニュアル, UTS C言語手引書 V10L30 (24SP-3060-1), 富士通(株).

(研究開発部 電(内) 2508)

(センターニュースNo.358, 昭和62年8月20日発行)

計算機専用交換機(PACX)の接続クラスの変更について

PACXを経由した利用では、従来接続クラスとしてTTY1だけを用意していましたが、9月1日からのUTSの仮運用にあわせて、次のように変更します。

M ... OS IV/F4 MSP用

U ... UTS用

なお、TTY1は10月31日で廃止します。

(ネットワーク室 電(内) 2518)

(センターニュースNo.358, 昭和62年8月20日発行)

交換TTY手順端末の全二重フロー制御のサポートについて

従来、本センターを利用する場合の通信方式は、半二重を用いていましたが、9月1日よりフロー制御をサポートするため、交換TTY手順端末の通信方式を全二重に変更します。

フロー制御とは、データを送信中に、制御コードDC3を受信した場合、送信を一時中断する機能です。送信の再開は、制御コードDC1を受信することで行います。この機能を使用すれば、メッセージテキストを表示中にテキストの受信を一時中断(CTRLキー+S押下)して見ることができます。また、フロー制御機能を備えた端末であれば、端末の受信バッファオーバーフローを抑止できますから、高速の回線でセンターを利用できます。

なお、フロー制御機能をサポートすることで発生する問題にTRANSFERコマンドによるファイル転送があります。TRANSFERコマンドでは、伝送制御シーケンス中にDC3, DC1を使用しているため、フロー制御配下では正常に動作しません。

そこで、この問題を解決するため、従来のTTYコマンドでフロー制御機能を動的に選択できるようにしました。

コマンド名	オペランド
TTY	[LIST TW T4010]

オペランドの説明

LIST : 現在の端末タイプを表示する

TW : 低速表示, フロー制御なし

T4010 : 高速表示, フロー制御あり

なお, セッション開設直後は TW が選択されています。

(ネットワーク室 電(内)2516)

(センターニュースNo.358, 昭和62年8月20日発行)

昭和62年度(後期)ライブラリプログラム開発計画募集について

ライブラリプログラム開発計画募集要領(センターニュースNo.336参照)に基づき標記開発計画を下記のとおり募集します。どしどし応募してください。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 昭和62年9月18日(金)
3. 応募手続 所定の申請書をライブラリ室(内線2508)まで提出する。申請書および募集要領はライブラリ室へ申し込むこと。
4. 対象課題
 - a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
 - b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発者はなるべく早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するよう努力するものとしますが、これら開発者の義務、開発に係る経費等の事項の詳細については、募集要領を参照してください。

(ライブラリ室 電(内)2508)

(センターニュースNo.358, 昭和62年8月20日発行)

A4版高速NLPのサービス開始について

9月1日から、A4版高速NLPのサービスを開始しました。従来のB4版NLPとの仕様の違いは表1のとおりです。

出力クラスは“H”を指定してください。

出力できる文字セットは表2のとおりです。文字セットはDD文のUCS(Universal Character Set)パラメタ,あるいはLPALLOCCOMMANDのUCSオペランドで指定できます。ALLOCCOMMANDは、文字セットの指定はできません。また、印刷時の行間隔も同様に、DD文のFCB(Form Control Buffer)パラメタ, LPALLOCCOMMANDのFCBオペランドで指定できます。指定できるFCBは表3のとおりです。

A4版NLPの省略値は、UCSが“LC15”, FCBが“A408”です。B4版NLPの省略値は、装置によって“KA10”, “LC10”のいずれかで、FCBが“B406”です。文字

セット、FCBの組合せによっては、正常に出力できない文字があります。表4を参照してください。

なお、A4版NLPは機器の高速性を維持するため、NPLOT、GRAPHMAN、SPSTINGY、COMPACT、ATFなど、図形やイメージは出力できません。また、ODMやSAS、ANALYSTなどで、図形やイメージを含むものは出力できません。

A4版NLPはクローズド機器室に設置しますので、クローズド機器のサービス時間内でのみ利用できます。

使用例)

- バッチの実行結果を、A4版NLPに出力する。総てのリストはA4版NLPに出力される。

```
//A70123A1 JOB パスワード, CLASS=A, MSGCLASS=H
```

- バッチでFORTRANの実行結果を、A4版NLPに文字セット‘EL12’、FCB‘A406’で出力する。

```
//A70123A1 JOB パスワード, CLASS=A, MSGCLASS=H
```

```
// EXEC FORT77, UCS=EL12, FCB=A406
```

- バッチの実行結果をSORP検索後にA4版NLPに出力させたい時は、ENDサブコマンドを次のように入力する。

```
END DSF(H)
```

- TSSでFORTRANの実行結果を、A4版NLPに出力する。

```
ALLOC F(FT06F001) SY(H) REU
```

- TSSでFORTRANの実行結果を、A4版NLPに文字セット‘EL12’、FCB‘A406’で出力する。

```
LPALLOC FT06F001 SY(H) UCS(EL12) FCB(A406) REU
```

- TSSでデータセットの内容を、A4版NLPに出力する。

```
LIST データセット名 SY(H)
```

- データセットの内容を、文字セットを指定してA4版NLPに出力する。

カタログドロシージャTSSCATLGを使用して、バッチ依頼する。

```
//A70123A1 JOB パスワード, CLASS=A, MSGCLASS=H
```

```
// EXEC TSSCATLG
```

```
//SYSTSPRT DD SYSOUT=H, UCS=AS10 .....文字セットを指定
```

```
//SYSTSIN DD *
```

```
LIST データセット名
```

```
//
```


表1. NLPの装置仕様

項 目		A 4 版 N L P	B 4 版 N L P
用紙の大きさ		縦： 8 インチ 横： 1 2 インチ	縦： 1 1 インチ 横： 1 4 インチ
1 インチあたりの 文字数 (C P I)		1 0 文字 1 2 1 5	{ 1 0 C P I } { 1 2 C P I } { 1 5 C P I }
1 インチあたりの 行数 (L P I)		6 行 8 1 2	{ 6 L P I } { 8 L P I } { 1 2 L P I }
1 分あたり の行数	6 L P I 8 L P I 1 2 L P I	1 0, 6 0 0 行 1 4, 1 0 0 2 1, 2 0 0	2, 0 0 0 行 2, 6 7 0 4, 0 0 0
図形, イメージ		出力不可 (結果は保障できない)	出力可
漢 字		出力可	出力可

表2. 文字セットと U C S

U C S 名	文字の 大きさ (C P I)	文字数 / 行		文 字 セ ッ ト
		A 4 版	B 4 版	
K A 1 0	1 0	1 0 8	1 3 6	ゴチック型 (カナ文字)
K A 1 2	1 2	1 2 8	1 6 3	" (")
K A 1 5	1 5	1 6 1	2 0 4	" (")
L C 1 0	1 0	1 0 8	1 3 6	" (英小文字)
L C 1 2	1 2	1 2 8	1 6 3	" (")
L C 1 5	1 5	1 6 1	2 0 4	" (")
A S 1 0	1 0	1 0 8	1 3 6	" (US-ASCII)
A S 1 2	1 2	1 2 8	1 6 3	" (")
A S 1 5	1 5	1 6 1	2 0 4	" (")
E L 1 2	1 2	1 2 8	1 6 3	エリート型 (英小文字)
E L 1 5	1 5	1 6 1	2 0 4	" (")

表3. FCBと出力行数

装置	FCB名	L P I	印刷可能行数
B 4 N L P	B 4 0 6	6	6 2 行 / 頁
	B 4 0 8	8	8 4
	B 4 1 2	1 2	1 2 4
A 4 N L P	A 4 0 6	6	4 7
	A 4 0 8	8	6 4
	A 4 1 2	1 2	9 6

*1 B 4 版 N L P 省略値 (カナ文字)
*2 B 4 版 N L P " (英小文字)
*3 A 4 版 N L P "

表4. 文字の組合せ

文字の種類	文字の大きさ	6 L P I	8 L P I	1 2 L P I
英数字 カナ文字	1 0 C P I	出力可	出力可	出力不可
	1 2 C P I			出力可
	1 5 C P I			出力可
漢 字	1 2 点 (5 C P I)	出力可	出力不可	出力不可
	9 点 (8 C P I)		出力可	
	7 点 (1 0 C P I)			

(第一業務掛 電(内) 2517)

(センターニュースNo.359, 昭和62年9月7日発行)

N-1電子メールのテスト運用について

7大学の大型計算機センターで開発した電子メールシステム(N-1電子メールと呼ぶ)が、10月1日(木)より部分的に利用できるようになりますのでお知らせします。この電子メールのシステムは大学間コンピュータネットワーク(N-1ネットワーク)上に構築されるものです。今回テスト運用が開始されるのは本センターのローカルメールシステムと下に示したセンター間のN-1ネットワークを経由したメールシステムです。

センター名	ホスト名
北海道大学大型計算機センター(北大センター)	HOKKAIDO
東北大学大型計算機センター(東北大センター)	TOHOKU
東京大学大型計算機センター(東大センター)	TOKYO
名古屋大学大型計算機センター(名大センター)	NAGOYA
京都大学大型計算機センター(京大センター)	KYOTO
大阪大学大型計算機センター(阪大センター)	OSAKA
九州大学大型計算機センター(九大センター)	KYUSHU

北大センター、東大センターのメールシステムのサービスは、現在準備中です。利用可能になりしだいログオン時のメッセージ等でお知らせします。メールの送受信に使用するコマンドの用法は、以下のとおりです。

1. N-1電子メール用のコマンド

(1) 入力形式1

コマンド	オペランド
N1MAIL	[受信者リスト] [R/{データセット1 *}] [T/{データセット2 *}] [S/{データセット3 *}] [L/整数1] [C/整数2] [CAPS]

(2) 入力形式2

コマンド	オペランド
N1MAIL	BOXCHECK

(3) 機能

入力形式1のとき、電子メールの送信または受信を行なう。受信者リスト、R/、T/、S/オペランドがすべて省略されたとき、メールの受信が行なわれ、それ以外の場合には、メールの送信が行なわれる。入力形式2のとき、自分宛のメールが届いているかどうかを調べる。メールが届いていると、“You have mail.”というメッセージが出力される。なお、ログオン中にメールが届くとその都度“You have mail.”が端末に出力される。

2. オペランドの説明

受信者リスト

メールの受信者(宛先、共通利用番号制のユーザ名)を指定する。受信者が複数の場合に

は、コンマ“,”または空白の列で区切った受信者の集合を指定する。N-1ネットワークを経由して他の大型計算機センターのユーザにメールを送るには、ユーザ名の後に@記号、更にN-1ネットワークのホスト名を指定しなければならない。

【例】 N1MAIL A79999A A41111A@NAGOYA A29999@TOHOKU

この例では九大センターのA79999A、名大センターのA41111A、東北大センターのA29999というユーザへメールを送ることになる。

R/{データセット1|*}

メールの受信者をデータセットから入力するとき、データセット1に受信者リストが格納されたデータセットの名前を指定する。“R/*”と指定すると、受信者リストを端末から入力することができる。この場合、後述のN1MAILコマンドのサブコマンドも端末より入力可能である。

T/{データセット2|*}

データセット2で手紙の本文が格納されたデータセットの名前を指定する。

S/{データセット3|*}

データセット3で手紙の主題(subject)が格納されたデータセットの名前を指定する。なお、データセット3は最初の1レコードだけが主題として読み込まれるだけである。

L/ 整数1

メール本体のレコード数を指定する。

C/ 整数2

メール本体の最大桁数(文字数)を指定する。L/とC/オペランドで指定された値により、メール本体格納用の作業領域が決定される。つまり、作業領域として整数1×整数2バイトが確保される。

CAPS

N1MAILコマンドからのメッセージを、大文字で表示したいとき本オペランドを指定する。本オペランドは、小文字を表示できない端末からN1MAILコマンドを利用するために設けられている。

3. メール送信用サブコマンド

“R/*”, “T/*”, “S/*”オペランドにより、N1MAILコマンドの処理中、1桁目が“~”で始まる文字列は、サブコマンドとして処理される。ただし、1桁目と2桁目が“~~”の場合には、“~”に置き換えてサブコマンドの処理は行なわない。

~X

メールの送信を中止して、N1MAILコマンドを終了する。

~?

メール送信用サブコマンドの一覧を表示する。

~! 文字列1

オペランドとして指定された文字列1が、TSSのコマンドとして実行される。

~R データセット1
データセット1に格納された内容を、本サブコマンドが入力されたテキスト中の位置にマージして、入力する。

~S 文字列2
オペランドに指定された文字列2を主題として入力する。

4. メール受信用サブコマンド

L 整数
オペランドで指定された番号のメールを端末に表示する。

S 整数
オペランドで指定された番号のメールを、データセットへ保存・格納する。本サブコマンドを投入するとデータセット名の問い合わせがくるので、既存のデータセット名(DISP=OLD)を入力しなければならない。なお、出力データセットのDCBは、N1MAILコマンドにより自動的に決定される。つまり、メールの本文のテキストがすべて同じ場合にはRECFM=FB、それ以外の場合にはRECFM=VBとなる。

P 整数
オペランドで指定した番号のメールを、ラインプリンタへ印刷する。本サブコマンドを投入すると出力クラス問い合わせがくるので、O、Sなどを応答しなければならない。

D 整数
オペランドで指定された番号のメールを消去する。なお、指定されたメールが実際に消去されるのはQサブコマンドが投入されたときである。

Q
L、S、P、Dサブコマンドで参照されたメールを消去した後にN1MAILコマンドを終了する。

X
参照されたメールを消去せずに保存したままN1MAILコマンドを終了する。

H
発信者、日付、主題等をまとめた受信メール一覧を表示する。なお、受信メール一覧はN1MAILコマンド起動時に自動的に表示される。

“?”、“!”サブコマンドはメール送信用の場合と同様に使用できる。

5. 注意事項

- (1) 受信者は最大128人まで指定できる。
- (2) メール本文は、最大120キロバイトである。
- (3) JEF漢字コードを含む文を送ることができるが、BS(X'16'), HT(X'05'), VT(X'0B'), FF(X'0C'), ESC(X'27'), 漢字シフトコード(X'28', X'38', X'29')以外の制御コードを含むファイルは送ることができない。当然、ODMで作ったファイルは送れない。
- (4) 主題(subject)は省略できる。

(5) プロンプト文字によりN1MAILの内部状態は以下のように区別されている。

プロンプト	内部状態
r)	受信者入力中
t)	メール本体入力中
s)	主題入力中
mr)	メール受信中

(6) N1MAILでは、ASCII文字を入力できる小文字用端末(センター二階受付前の端末)を標準にしている。ASCII文字を入力できない端末からは、“!”の代わりに“|”を“~”の代わりに“- (オーバーライン)”をそれぞれ入力する。TTY手順のASCII端末(パソコン等)の場合はあらかじめ以下のコマンドを入力して端末のコード系を切り替えておく必要がある。

TERM NOTRAN

SETCODE D(USASCII)

N1MAILコマンドの使用後、端末のコード系を九大センターの標準コード系に戻すためには以下のコマンドを入力する。

CALLM TABLE

SETCODE D(ASCII)

6. 使用例(下線部が端末からの入力である。)

READY

N1MAIL A70014A A49999A@NAGOYA

N1mail version 01.5 (NUCC)

Enter mail text.

Please enter null line to terminate t> mode.

t>TEST

t>test

t>テスト文書

t>

Subject:test

Posted TO Kyushu post office.

Posted TO network post office.

READY

N1MAIL A70014A T/LETTER.TEXT

N1mail version 01.5 (NUCC)

Subject:TEST2

Posted TO Kyushu post office.

READY

+YOU HAVE MAIL.

READY

N1MAIL

N1mail version 01.5 (NUCC)

#001 from: A70014A

posted: 87/09/18 text: 2 records.

SUBJECT: mailtest

#002 from: A70004D

posted: 87/09/18 text: 2 records.

SUBJECT: test

#003 from: A70014A

posted: 87/09/18 text: 5 records.

```

SUBJECT: tegami
mr>L 1
TEST
test
これは電子メールのテストです。
    昭和62年9月18日
mr>S 1
Enter data set name ? ==>SAVEMAIL.TEXT
mr>X
READY
LIST SAVEMAIL.TEXT NON
KEQ52800I A70035A.SAVEMAIL.TEXT
TEST
test
これは電子メールのテストです。
    昭和62年9月18日
KEQ52802I END OF DATA
    
```

(ネットワーク室 電(内) 2518)
 (センターニュースNo.360, 昭和62年9月29日発行)

ODM (日本語文書処理) での ATF 文書のディスプレイ表示について

イメージ機構付端末 (F 6 6 8 3 ; 予約台 3 台, 自由台 2 台) で, ODM文書中のATF命令による文書が表示できるようになりました。この機能を使用するには、ページ形式指定パネルでイメージ出力を1 (要) に、また、数式・英文処理環境設定パネル (SINITコマンドによる) のパターンファイル名を 'PP1. ATF 4 0. PATLIB' に変更する必要があります。詳細については、マニュアル [1, 2, 3, 4] を参照してください。

-----< ページ形式 >-----	
用紙 形式 ==> 2	
1 定型用紙 ==> 0	(1:A4 2:B4 3:A5 4:B5)
2 非定型用紙.....	縦(行数) ==> 66 (42 から 108)
	横(文字数) ==> 109 (10 から 136)
方向 (A4 B4) ==> 0	(1:縦 2:横)
本文開始行 ==> 4	
本文開始桁 ==> 3	
本文 段組 ==> 1	1 一段組
	2 二段組..... 段間文字数 ==> 0
行数 ==> 60	(6行 以上)
一段当り文字数 ==> 39	(10文字 以上)
行間隔 ==> 1	(1:6LPI 2:8LPI)
行送り間隔 ==> 1	(1: 1行 2: 2行 3: 3行)
文字の大きさ ==> 1	(1: 9 2:12 3: 7)
印刷文字間隔 ==>	(1:1/5 2:3/20) BGP, NPR
清書タイプ ==> 2	(1:OPR 2:HNLP, NLPE 3:NLP)
	(4:BGP, NPR 5:NDP, WDS, BGD, IDP)
英小文字半角 ==> 1	(1:有 2:無)
機能レベル ==> 1	(1:標準 2:拡張)
イメージ出力 ==> 1	(1:要 2:不要)

```
-----< 数式・英文処理環境設定 >-----  
パターンファイル名 ==> ' PPL ATF40 PATLIB '  
パスワード ==>  
  
文字ピッチ ==> 2 (1:10CPI 2:12CPI)  
英文字の扱い ==> 1 (1:ASIS 2:CAPS)  
  
実行する場合は ENTER キー, 中断する場合は END キーを押してください。
```

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OSIV ODM解説書 (70SG-6000-4), 富士通(株).
2. 計算機マニュアル FACOM OSIV ODM使用手引書 (70SP-6010-4), 富士通(株).
3. 計算機マニュアル FACOM OSIV FDMS/JEF使用手引書 (70SP-7662-1), 富士通(株).
4. 計算機マニュアル FACOM ATF解説書 (99SG-7260-3), 富士通(株).

(ライブラリ室 電(内) 2508)

(センターニュースNo.360, 昭和62年9月29日発行)

英論文清書システムATFのIDPコマンドについて

イメージ機構付端末(F6683; 予約台3台, 自由台2台)でATFのIDPコマンドが使用できるようになりました。このコマンドはテキストファイルをイメージディスプレイ装置に清書表示します。詳細については、マニュアル[1,2]を参照してください。

使用例

READY

ATF

***** ATF (V10 / L40) 09/01/87 11:24:27 *****

READY

IDP FROM(テキストファイル)

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM ATF解説書(99SG-7260-3), 富士通(株).
2. 計算機マニュアル FACOM OS IV/F4 MSP ATF使用手引書(78SP-7270-3), 富士通(株).

(ライブラリ室 電(内) 2508)

(センターニュースNo.360, 昭和62年9月29日発行)

ネットワーク利用負担金の無料化について

10月1日(木)から九州大学大型計算機センター利用負担金規定の一部が改訂され、「ネットワーク利用負担金」項目が削除されてネットワークの利用負担金は無料となります。

(第一業務掛 電(内) 2517)

(センターニュースNo.360, 昭和62年9月29日発行)

投 稿 の し お り

センターでは利用者の方々とより深い交流をはかるため、次のような種類の原稿を募集しています。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 随 想 | 2. 計算機を利用して行なった研究・開発の紹介 |
| 3. プログラムの実例と解説 | 4. センターに対する質問・要望 |
| 5. 利用者の声 | 6. その他計算機に関すること |

執筆上の注意

1. 原稿用紙は原則として、当センター規定のものを使用してください。(共同利用掛にあります)
2. 黒鉛筆, 黒ボールペン, 黒インクのいずれかで書いてください。
3. 原則として、当用漢字, 現代かなづかいで統一してください。
4. 図, 表は別紙に明瞭に書き, 挿入位置を明示してください。
5. 別刷は原稿提出時に希望があれば, 50部まで無料とします。ただし, 配布先一覧が必要です。

原稿の掲載については広報教育委員会で検討させていただきます。その他投稿に関するお問合せは共同利用掛(TEL. 内線 2505)へどうぞ。

原稿の送付先は次のとおりです。

福岡市東区箱崎6丁目10番1号(〒812)

九州大学大型計算機センター 共同利用掛